



情報ギャラリー第24号
 発行日 2003年10月31日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 神戸市シルバーカレッジ
 社会還元センターグループ“わ”
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール gallery@wa-net.jp
 ホームページ <http://www.wa-net.jp>

グループ“わ”の現状

グループ“わ”代表 赤司 松美



会員の皆様には
 お健やかに過ご
 しのこととお慶び
 申し上げます。

更なる発展をめ
 ざしたグループ“わ”の取り組みに
 ついて本部便りとして現状を報告い
 たします。

1. 開校10周年記念行事に対する “わ”の取り組みについて

9月24日(水)より28日
 (日)の間、シルバーカレッジ開校
 10周年記念として神戸文化ホール
 での式典を皮切りに各種行事が展開
 され、改めて建学の精神である「再
 び学んで他のために」が再認識さ
 れ、グループ“わ”のボランティア
 活動に対する関係者の関心が集ま
 り、ますますその活躍が期待される
 ようになりました。

グループ“わ”も10周年記念事
 業実行委員会の一翼を担い「地域交
 流・体験事業部」としての行事運営
 を担当し、その大役を無事果たすこ
 とができました。

まず9月25日(木)、しあわせ
 の村の施設との交流を深めるため、
 カレッジホールで各施設入所者を対
 象に「手をつなごうふれあい祭り」
 を開催したところ、初めての試みに
 もかかわらず計178名の参加者が
 あり、有意義な交流が盛会の中に無
 事終了することができました。これ
 は福祉部会を初め関係者の熱意とこ
 れまでのボランティア活動の成果が
 遺憾なく発揮されたお陰だと感謝し
 ています。

9月28日(日)は小学生親子を

対象に「親子で集まれ昔あそび」を
 カレッジホールで開催し、親子計2
 43名の参加があり、楽しく3世代
 の交流を図りその目的を果たすこと
 ができましたことは、文化部を中心
 とした関係者の努力と長年蓄積され
 たノウハウの成果だと深く感謝申し
 上げます。

9月25日(木)に予定していた
 「生き生きヘルシーニュースポー
 ツ」の体験行事はあいにくの雨のため
 残念ながら中止することに致しま
 した。この行事は来る11月17日
 (ジョイラックデー)に別メニュー
 で実施する予定です。

2. 発展のための取り組み状況につ いて

1)NPO 法人格取得をめざして

継続した活動を維持し、更に積極
 的な社会的活動を行うためには、現
 在の任意団体から脱皮しNPO法人
 格を取得し公的に認められた団体と
 して信用を高め、行政および各種団
 体より事業委託を受けやすい体制に
 して経済的基盤を確立することが必
 要と考えます。そのために昨年6月
 よりNPO検討委員会を立ち上げ申
 請手続きと申請書類の作成方法につ
 いて県の指導を受け見通しをつけま
 したが、会費制導入検討のためやむ
 なく2月より一旦中断していました。

本年5月の総会において活動方針
 の中でNPO法人格取得の提案が承
 認されましたので同5月の法改正を
 待って同7月より検討委員会を再開
 し来年4月の取得をめざして作業を
 推進しております。現時点では、1

2月初め会員への説明会を開催し、
 引き続き運営委員、検討委員に最終
 審議と発起人を委託し、NPO発起
 人総会を得て12月下旬には申請手
 続きをしたいと考えています。

2) ボランティア保険について

ボランティア活動による会員のケ
 ガの補償、および事故による“わ”
 が民法上の責任を負った場合の賠償
 保証のために本年度は「兵庫県ボラ
 ンティア活動など行事用保険」に全
 員加入し、個人および団体として安
 心して活動ができるようにしまし
 た。ボランティア活動による事故に
 対して“わ”の会員および団体とし
 ての“わ”を補償する適切で有利な
 保険はないかを検討するために、保
 険業務に経験のある会員で保険検討
 委員会を構成し、現在までに2回の
 委員会を開催、あいおい損保(株)
 の「NPO保険」が任意団体である
 “わ”にも適用されるとの確認をし
 た結果現段階では現在加入している
 保険より適切で有利な保険と判断さ
 れます、引き続き調査・検討を加え
 て12月の運営委員会で審議でき
 るよう提案書を提出する予定で業務推
 進中であります。

3)活動の場を広げるために

しあわせの村をはじめ、フラワ
 ー・フルーツパーク等と各種行事へ
 の連携参画について継続した協議を
 進めております。手始めにフラワ
 ー・フルーツパークの「神戸スロ
 ライフウィーク」の行事(11月2
 3日~30日)に参画することを決
 定しております。

なお広報活動にも力を入れ、新規
 ボランティア活動の場を広げて行く
 ことと致します。

以上

盛会だった開校10周年記念式典 夕刻からは祝賀会も

開校10周年記念式典は、2003年9月24日(水)、小雨もよいの中、神戸文化ホール大ホールで午後1時から、国際交流・協力コース3年末廣暁子さんの司会のもとで開始され、まず開校10周年記念事業実行委員長の米谷幸次郎神戸市シルバーカレッジ事務局長が、要旨次のような開会の言葉を述べられた：

この式典は開校以来10年で最も大きなイベントである。開校(平成5年9月)後1年4ヶ月で阪神淡路大震災に遭遇し、学校も含めしあわせの村は全国からの救援物資の集散地となり、休校を余儀なくされたが、多くの学生が登校して、建学の精神「再び学んで、他のために」を実践した。それが今日まで脈々と受け継がれている。きょう10周年の記念式典を迎えることができたのは7部会40名からなる卒業生、在校生で構成した実行委員会の方々の努力の結果である。

続いて今井鎮雄神戸市シルバーカレッジ学長が要旨次のような挨拶をされた：

正直な所10周年でこんな大きなことは考えていなかった。在校生と卒業生が一緒になって熱心に作って頂いた。ここに将来の夢を見る気がする。60歳の定年で人生が終る訳ではない。まだまだ余力があり再び学んで充実するだけでなく、これまで蓄えた知識、知恵を地域に、日本に、世界に発揮活用して頂きたい。当校の卒業生は2400人余り、在校生は1300人余りいる。外に向かって力を発揮すれば、大きな力となるだろう。二十世紀、資本主義が発展し、物が豊かになり人々は満足を得ただろうが、果たして幸福は得られただろうか。P・ドラッカーは時代を変えるには100年かかる、その間にきしみ、隙間ができる、それを支えるのがボランティアだと言っている。カレッジの卒業生、学生の方々、夢と希望を持ってこれからもボランティアを続けて頂

きたい。

次に来賓紹介、来賓祝辞、祝電披露があり、続いて誕生したばかりの校歌発表となった音楽文化専攻の講師でもある斉田

好男神戸大学教授の指揮でまず総勢160人に上る混声合唱団の合唱で躍動感溢れる校歌が歌われた後、斉田教授の指導で聴衆の斉唱が行われ、会場が一つになった。

以上でプログラムの第一部は終了、小憩の後第二部に移り、評論家で東京家政大学名誉教授の樋口恵子氏による要旨別項のような講演があつて、会場は笑いに包まれつつも、これからの生き方に大きな示唆を受けた。

続いての6人の諸氏によるシンポジウムがあり、3時間に及ぶ記念式典が終わった。

午後5時からは校友会主催による



祝賀会がハーバーランドのホテル、ニューオータニ鳳凰の間で開かれ、これには矢田立郎神戸市長も来賓として臨席され挨拶をされた。会場は音文講師の山中佑起子さんのマリンバ、木許隆さんのピアノ、浜野珠美さんのパーカッションのトリオの奏でる甘美で楽しいリズムが終始流れ、和やかな歓談の時間が過ぎていった。途中トリオの伴奏で校歌の斉唱や、お楽しみ抽選会があり、フィナーレは在校生有志によるハワイアン・フラの演技があつた。最後に実行委員の1人でもある赤司松美グループ“わ”代表の開会の言葉で終宴となった。

主なご来賓の方々：(敬称略、カレッジ関係は除く)

大下 知則神戸市保健福祉局参与、宮崎 稔同(社協常務)、平田 修三同局高齢福祉部長、高橋 英比古神戸市教育委員会社会教育部長、小林 紀幸兵庫県いなみ野学園学園長、新野 幸次郎こうべ市民市民福祉振興協会会長、中前 正憲同専務理事、藤井 良三同常務理事、金光 清行同常務理事、大下 正宏同企画運営本部長、岡本 正隆同調査役、川原 啓治同企画課長、酒井 昭夫同元専務理事

祝電、祝信を寄せられた方々：(敬称略、順不同、(信)は書信)

実行委員会宛 矢田 立郎神戸市長、梶本 日出夫同助役、中村 三郎同保健福祉局長、町本 欣信同北区区長、新野 幸次郎こうべ市民福祉振興協会会長、箕輪 誠治(財)兵庫県高齢者生きがい創造協会理事長、吉岡 正勝神戸市老人福祉施設連盟理事長、丸尾 宗茂ワークホーム緑友施設長、村上 秀雄神戸市立たまも園園長(信)

学長宛 武田 建市民福祉大学学長、神戸市社会福祉協議会ボランティア情報センター、畑野 守特別養護老人ホームあいハート須磨施設長(信)、シスター石戸聖ピンセンシオの愛徳姉妹会代表(信)

たまも園支援グループ宛 村上 秀雄神戸市立たまも園園長

ロビーの会宛 村上 秀雄神戸市立たまも園園長、(財)PHD協会理事・職員一同

コーロKSC宛 佐藤 容一老人保健施設エルダービレッジ施設長、浜崎 茂特別養護老人ホームパーマリー・イン中道施設長、同職員一同

10周年記念式典宛 高谷 育男神港園しあわせの家施設長

KSCボランティアセンター代表宛 畑中 康雄神戸愛生園デイサービス事業施設長

グループ“わ”須磨区委員宛 樋口 雅亮神港園サニールイフ白川施設長(信)

グループ“わ”事務局宛 青山 喬介護老人保健施設コスモス園施設長(信)

開校10周年記念式典第2部パネルディスカッション シルバーカレッジの目指したもの、目指すもの

このページはカレッジ情報編集部より情報提供を受けて制作しました。

パネリスト

神戸市シルバーカレッジ学長

関西学院大学教授

コミュニティサポートセンター神戸理事長

グループ“わ”元代表、会員

グループ“わ”会員

コーディネーター

関西大学教授

今井 鎮雄

浅野 仁

中村 順子

中島 洋吉

内海 尚枝

松原 一郎



松原コーディネーター(以下CO)

討論を次の3つくらいに絞って進めたいと思います。

(1) 生涯学習はどうなっているか。その評価はどうか。

(2) 社会参加、貢献に特色があるか。特色を出すためにどうしたらいいか。

(3) これからの10年、20年にどんな展開ができるか。更なる充実を図るにはどうしたらいいか。

先ず1期生の内海さんに伺います。

内海さん：カレッジができるというので応募しましたら入学試験があり、これにはびっくりしました。何とか通り、平成5年9月に



入学しました(当時は9月

でした)。学校は何もかもが新鮮で毎日が楽しゅうございました。平成7年1月みなさんご承知の大震災があり学校は休校となりました。被災された方々をお見舞いしたり、勇気付けたりしているうちに自然とボランティア活動が身についたような気がします。

CO：中島さん如何でしょう？

中島さん：自由な雰囲気の中で体系的なカリキュラムを学ぶことは素晴らしい事と思います。生涯学習については、私は65歳までは



期入門期で新しいことを学び65歳からは期、学んだことを如何に社会に還元するかの時だと思っています。

CO：浅野先生如何ですか？

浅野さん：放送大学の資料作りのため取材させていただいた時、ベトナム



ム人の子供達への学習指導のボランティア活動に取り組んでおられる姿を拝見し、感激しました。社会参加、社会還元のための人

材育成だけでよいのか疑問を感じるのですがね。

中島さん：“わ”の事情から言えばボランティアは無理してやるものではない。むしろ自分のためにやると考えたほうがいい。

内海さん：“人のためになれたらいい”とだけ考えてやってきました。

CO：NPOの先人である中村さん如何ですか？

中村さん：皆さん方の世代はサードエイジと呼ばれています。私は団塊



の世代に属しています。サードエイジは私たちのお手本になって頂きたい。過去10年を

失われた10年というようですが、私はそうではないと考えています。

この間にNPOは格段に増えました。全国で1万4000団体あります。それから私が期待することは学びを目的とするのではなくボランティアをするための手段として考えていただきたい。

CO：学びを目的としてもいいのではないのでしょうか。学びも楽しいですよ。

中村さん：松原コーディネーターも浅野先生も学者でいらっしゃるからそうおっしゃいますが、私達は実践が大事ですから学びは手段と考えるのです。

今井学長：社会が急速に変わっていきますので、その変化についていける



高齢者になるため、学ぶことも必要だと私は考えます。学ぶことによって次のゴールを

見つけるということもあります。

CO：カレッジの更なる発展のためにどうすればいいのでしょうか？

中島さん：実践をしていくというのとつまずくことがある。その場合レベルの高い講座に入って学びなお

すといったシステムが考えられないだろうか。

高齢者学習の欠点として学んだだけで実践に生かせないことがある。創立以来10年経ったので、1・2期生の考え方と10期生とはかなり違っていると思われます。新しいカリキュラムにし、実践のためのきっかけを作ってあげることも必要でしょう。例えばワークショップ。

CO：カレッジのこれからに期待することは？

浅野さん：社会参加は重要なことですが、それだけでなく個人、夫婦、家族のレベル向上に繋げていき生活を楽しんでいけることが重要と思います。その秘訣をSCで学ぶことができたと思います。

CO：学びを通じて自分を相対化で



きるということですね。社会を相対化して見ることができるということですね。

中村さん：私は3つのことを期待したいですね。1つは、NPOとカレッジを繋ぐネットワークがほしい。行事のあるときだけでなく日常的な活動の中で連携をしていく方がほしいです。2つは自主活動のワークショップを取り入れてほしい。3つ目は次の世代を見つけるための何か工夫がほしい。例えば社会参加をして頂いた方にポイントを差し上げ、ポイントをたくさん持っている方は優先的にカレッジに入学できるとか。私は「机」、「名刺」を用意し「仕事」をして頂く工夫をしています。

CO：内海さん如何ですか？

内海さん：当初ベトナムの子供達へのボランティアにはSCからは殆どありませんでしたが、今では十数人の方が参加されている。このような広がりがもっと増えることを期待しています。

CO：本日はありがとうございました。

開校10周年記念式典における樋口恵子氏の講演

「再びの学びの中で育てたもの、育つもの」要録

記念式典で行われた樋口恵子氏の講演の録音速記全文は本紙9ページ分にも亘るため、「過ぎた10年、来るべき10年」のテーマに絞って、広報部の責任で要録に整理したものです。



都知事選出馬のこと

個人の生き方とか在り方には何が降ってくるか分かりませんね、私まさかことし70歳で都知事選に出ようとは夢にも思わなかったわよ。なんてんたって告示の直前に決心して17日ですからね、あちら310万票、私82万票。ですがあちら現職ってのは4年間選挙運動してるようなもんですからね、あちら4年間で310万票、こちら17日で82万票(拍手)。一日当りの集票能力はこちらの方が高いや。でこの話が出たついでにCM。「平和ボケおばさん」七十歳の熱き挑戦!、チャレンジ」という本が出ておりますので、どうぞこれを読んで頂ければ、私がなぜ出なければならなくなったかということが分ります。

長く生きた者の責任

歳を取った方はい「今時の若者は...」と言いたくなります。今時の若者に言いたいことは山ほどございます。しかしその今時の若者を作ったのは私たちなんです。どんなに若者や今の世の中に問題があろうと、それはより長く生きてきた者の側に責任があるのです。私たちは、生きてある限り、これからも一票の権利を持ち、生涯現役一有権者であり、一市民である。長く生き延びることができたことへの感謝の思いも込めて、次の世代に持続可能な本当の意味でより豊かに生きることのできる可能性を持った社会を目指す責任を持っているわけです。

不況の10年、危険な10年

きょうは10周年ということですから、この10年が一体どういう10年だったか簡単に私なりの分析を申し上げたいと思います。1994年からの10年は、ある意味で評価は定まっております。アメリカのエコノミストは「ロスト・ディケード(失われた10年)」と言います。確かに日本は、この不況から未だに脱することができず、今までこれだと言う決め手は出てない。だから未だ本当の景気回復とは言えないようです。

日本は今は大変な借金を抱え、次代にツケを回す世界先進国でもまれな国になっている。小泉さんでなくたって構造改革はしていかなければならない。その意

味で、経済・財政・金融の側面から失われた10年と言うのは当たっていることは事実でありまして、これが一つの面です。

別の側面から見ると、ある意味で戦争がし易くなった、危険な10年と言うことができます。

冷戦構造の崩壊による国際情勢の変化によって、有事3法、有事立法があつという間に作られた。

ちょっと危機感を感じるぐらいな偏狭なナショナリズム、異論を許さない考え方がすーと通って行き、安全保障に関する法律があつという間に通り、一方で通信傍受法とか、住基ネット法とか個人情報保護法とか、個人のプライバシーを権力の側がコントロールし易い法律があつという間にできてしまった10年でもあったとも言えます。

もう一つの見方の10年

さて、この不況の10年と、危険の10年を見たとき、私たちは陰陰滅滅としてくることばかり。その割に私が元気なのはなぜか、と言いますと、私はこの10年間に実はもう一つの見方をしているのであります。ここに掲げられたスローガン[再び学んで他のために]のように衣食足りて他人の存在が視野に入るようになりました。ふと気が付いたら地球が丸ごと見えるようになった。この10年、思えば目を見張るほど大きな変化でございます。

これからお話する第3の見方の10年の年表を改めて作ってみたら、本当に希望が湧いてくる。名付けて言えば、市民の10年、あるいはパートナーシップの10年、と言っていりかも知れません。

異質の、立場が違い、今までは地位の違いがあったグループの対等なパートナーシップの出発がこの10年でございます。特に、95年の阪神淡路大震災、このことがきっかけで、日本中の、あるいは世界の人々が行政では決してできないことに向けて、お互いに支え合うべく、立ち上がったのであります。ここまで日本の様々な民間のボランティア活動、NGO活動が、老若男女を問わず広がってきたのかと、目を見張る思いもいたします。そのときがきっかけとなって、19

98年には特定非営利活動促進法、世に言うNPO法とも言われる法律がスタートします。これによって如何に多くのNPOが生まれたことでしょうか。この神戸市シルバーカレッジの卒業生あるいはその周辺の方々の中にもNPO法人をいくつも立上げていると言う様子を拜見しております。

NOP法人なんて作って地域活動する定年退職後の男の人が本当に増えました。10年で変わった男性群

先だって企業を定年退職したあるグループの中で活動報告会があり、付随して川柳の募集ってのがあったんですよ。第一位の川柳ってのは大企業を定年退職して、しばらく経った方の川柳でして、「朝ボラに行く顔揃う縄暖簾」。(笑)

朝ボラって言うのは朝のボランティアね。今までは会社の帰りに縄暖簾という過ごし方をしてたんですが、近頃はその日の夕方揃うのは「朝ボラに行く顔揃う縄暖簾」。いいですね。10年前は大分違いました。シルバーカレッジの開校式でご披露したかも分かりませんが、ある人のご夫君が、ボランティアなされた。理工系の方なんで、運転がうまいし、カーボラのお声が掛かると自分の活動を中止しても助手席に乗り込む。運転以外はすべて奥様がやっている。付添いボランティアって有名になっている。私は五七五で読むだけなんですけど、「ボランティア妻が付き添う駄目おやじ」。(笑)

明らかにこの10何年間、男性の老いの生き方、サラリーマンOBの生き方が変わってきている。ずっと日本近代百何十年続いてきた官尊民卑の中で、民の立場をこれだけはっきり認めた初めての法律があつた特定非営利活動促進法であります。官尊民卑から官、民の対等なパートナー

シップ、と言うのが一つの大きな変化であります。

地方分権の拡大の流れ

第2に1995年に地方分権推進法という5年の時限立法ができました。いま神戸市長さんからのご挨拶にもあったように、市役所だけでは何もできません。市民の方に参画して頂いてこの地域を良くすることができるのです。地方分権各法が、2000年4月から施行されています。かつては機関委任事務と言って国が決めた通りにしなければならなかった都道府県の事務の6割が自治事務といって、自分たちで条例を制定する権利ができるものになりました。都道府県すべての自治体の条例制定権というのがものすごく幅が広がりました。

これは、百三十年続いてきた中央集権の行政に対する大きな変化であり、2000年4月地方分権一括法というのできて、国が上で、地方が下、上下主従の関係であった国と地方自治体を対等なパートナーシップに変えていく第一歩がここで作られたわけでございます。

家族の中も対等関係が...

高齢化ということは、言ってみれば家族の構造が変わることです。かつて親の介護は家族の役目である、特に嫁の役目でありましたけれど、それは人生50年、60年社会でありまして、介護する嫁さんは20代から30代が普通でございます。それどころか人生の短い社会には長男の家に嫁いだとしても、もうすでに親はいないと言う人がかなりの数に達していたのでございます。

面白いもので高齢化社会というものは、なぜか長生きする女性のために起きた問題が結果としては男性の問題にも広がっていくのでございます。そして90年代の初めには男性も取れる育児・介護休業制度が確立されて参りました。日本経団連の会長さんが仕事と家庭生活のバランスということを言い出し、そしてこの10年の間に、仕事と子育て両立支援策に関する専門調査会の報告書を提出し、このことはついこの前の国会で次世代育成支援法として、女の人には育児休業を取る人8割を指導し、取っていないお父さんたちにも育児休業の取得率をまず1割を目指すという目標数値を入れながら、仕事と子育て、仕事と家庭のバランスを取る方向性がやっと日本にも示されてきたと言うことは、99年男女共同参画社会基本法が衆参両院満場一致でできたことを含めまして、これは男性と女性との人

生90年、100年社会に至る対等なパートナーシップの形成と言うことです。

高齢者の性差区分率は人口比よりやはり女性の方が多いのであります。所得も年金も女性の方がより貧しく、老いて、個人の資産を失い易いのはやはり女性の側であります。

このまま行きますと、老いて貧しいお婆さんの群れが日本社会に大量発生し兼ねない危険を持っているのであります。それを防ぐためには、今から男性と女性に対等に社会に参画し、共々に支え合っていくと言う男女共同参画が人生100年の必然であります。国と地方が、官と民が、男性と女性に対等になる幾つもの法律ができた。これはひとえに民主主義の成熟によって、民の側が色んな運動をし、活動をし、現状を変えて行った結果です。このパートナーシップの100年を更に人生100年型社会を作る10年、そしてこれからの10年を生きて行くのではないかと提言したいと思っております。

2050年になると...

実は去年のお正月、厚生労働省の国立社会保障人口問題研究所は2050年の人口将来推計をかなり詳細に発表しました。で、数字だけ申し上げますと、2050年で65歳以上人口はざっと36%になります。今は大体18%ですから65歳以上人口が今の2倍いることとなります。人口の4割が65歳以上です。特に女性は重要な地位を占めます。(笑)

ご来賓のご祝辞にもございましたが、現在平均寿命は男性が78、女性が85ですが、2050年の推計は、男性が81、女性が89と述べております。これが当れば、男女の平均寿命の差はまた1年半開きますから、そもそも男性女性の数のバランスが崩れるのは高齢者なんです。65歳未満はほぼ男女が5対5なんです。65歳以上になりますと平均寿命の差がものを言ってきました、65歳で言うと女6に対して男4、80歳では2対1です。

男は死ぬ要因が多い!?

去年の秋に行われた公衆衛生学会で、愛媛大学医学部公衆衛生教室の発表がちょっとした話題になりました。松山市の4千人位を対象とした8年位前に始まった調査なんです、重篤な疾病のないお年寄りを登録して、まずは健康と言うお年寄りのその後の経過を見守って、6年半も経つと幾人かは亡くなってるんです。何で亡くなったか死因リスク分析をする

と、男性は4つ位共通分子がありました。大酒飲み(笑)ね、大タバコ飲み。それからもともと病気がほどじゃないけれど高血圧の状況。4番目が、妻がいないこと。今度は女性の方の死因分析、共通リスク要因は1個しきゃない。何だと思いませんか。「夫がいること」(爆笑)。

若いうちはね、なかなか病気でられないけれど、歳を取るとやっぱり自分もガンに侵されたり、色々検査に行かなきゃならないときもある、無理の利かない体になっているのは男も女も同じなんです。そのときに無理をするから、あるいは受診する機会がなくて悪性の病気の発見が遅れて先に死んじゃう。そうすると身の回りのこともできない夫は自棄酒飲んでまたすぐ死んじゃう。(笑)

こういう社会がいいですか。自分の病気の療養もできず、夫の目を怖れながら早く死んでいく妻も哀れなら、自分の身の回りのこと一つできず、妻が倒れば後を追うように死んで行く夫もまた哀れであります。この人生100年時代、より長く共に生きる時間が長いことを、共に喜び合えることが大事な世紀にしようではありませんか。

じっと見ている人たちがいる

21世紀を名付けるならそれは明らかに高齢者の世紀です。人口の4割近くを占める高齢者が健康か不健康か、前向きか後ろ向きか、リッチかブアか、自律型か依存型か、社会参画型か引籠もり型か、高齢者の動向は日本の21世紀半ばを左右するものであります。65歳以上のきょうの皆様、そんな時に生きてないからいいわと言って私の言うことをお聞きなるとしたらとんでもないこととなります。そのときの主役はいま二十歳(はたち)とかそういう年齢の人です。その人たちと今私たちは共に生きている。そして今私たちがどういう人生100年90年の生き方のモデルを作るか、みんなじっと見ているのです。ですから人生90年100年を生きるために、最後のラストステージを、第三のステージをどのように生きるかを作っていくのは私たちでありまして、それを見ながらまた人口の4割を占めるときの高齢者である若い人々が後に続いて生きて行くのでありまして、これを「老婆(ローバ)や、老爺(ローヤ)は一日にして成らず。すべての道は老婆(ローバ)、老爺(ローヤ)に通ずる」と言うのであります。ご静聴ありがとうございます。(拍手)

本 部

スローライフ ウィーク

at 大沢 & FFP 2003

11月23日～30日

グループ“わ”はフルーツフラワーパークのスローライフイベントに協力参加します。

最近スローライフという言葉が聞いたり見たりされると思いますが、北区にあるフルーツフラワーパーク（略称FFP）では、11月23日から30日までの8日間下の表のような、スローライフをテーマにした行事が行われます。この企画には地元大沢の方々のほかグループ“わ”からも赤司代表が実行委員として参加しています。グループ“わ”もこの企画に協力することになりました。下のプログラムの内、11月24日の中高年の料理教室、25日のニュースポーツ、30日の昔あそびを担当することになり、現在いきがい部会、文化部会、環境部会の皆さんに詳しい計画の立案をお願いしています。

グループ“わ”会員の皆さんもぜひ来園し、スローライフを体験して

頂きたいと思います。知り合いの方々にもお勧めしてください。

FFPでは、この8日間は入園、駐車料を無料開放するそうです。

マイカーで行く場合は六甲北有料道路大沢インターを降りるとすぐです。バスの場合は神鉄岡場駅からFFP行きの神姫バス・神戸市バスがあって運賃は350円です。土日祝だけですが三宮からもFFP行きの神姫バスがあります。乗り場はJR三宮駅中央出口を浜側に出て、高架下を少し大阪よりに進んだところで、運賃は三宮～FFP間600円です。（事務局）

銭太鼓グループ銀雅が コムスタこうべに出演

9月19日(金)、コムスタこうべ(KK)で行われた「高齢者学習センター文化発表会」に銭太鼓グループ銀雅が参加しました。

また10月9日～同20日まで行われた「市民合同作品展」の一環として、KK3階の教室にグループ“わ”の各部会、地区会の活動パネルを展示しました。一角に会員有志7名の作品も展示し、場に華を添えることができました。出展に協力くださった皆さんに感謝します。（事務局）

“わ”は2店出店 第9回学園祭模擬店

第9回学園祭は開校10周年記念事業の一環として例年より1ヶ月早い9月27日(土)午前10時から始まった。グループ“わ”からは本部纏めで食文6期、同7期の有志がそれぞれホットコーヒーとカレーを販売した。コーヒーは1杯100円が280杯、カレーは1皿300円が400皿、いずれも完売の好成績。

国際部会有志によるベトナム店はNGOベトナム in KOBEのガ代表が自ら巻いて揚げるベトナム春巻きと、ことし初めてのドリップ式ベトナムコーヒーを販売した。ベトナムコーヒーは淹れるのに時間がかかり、果たして売れるか心配だったが100杯近く売れてガ代表も驚いていた。



日(曜日)	内 容	参加料
23(日)	「そば打ち体験」	2500円
	スローライフ パネルディスカッション	ディナーとセット3000円
24(月)	特別講演「神戸ビーフを知る」	ディナーとセット5000円
	「中高年男性の料理教室」	2000円
25(火)	特別講演「Dr家森と白井操のスローライフトークショー」	
	講座「ニュースポーツの楽しみ方」	無料
	ペタンク、スカイクロス、パターゴルフ	無料
26(水)	特別講演「コシノアヤコの心豊かな長寿な話」	ディナーとセット3000円
	ガーデニング講座「クリスマスリース作り」	各1500円
	クリスマス寄せ植え、ミニ門松作り」	
27(木)	特別講演「古代料理研究家 奥村彪男」	ディナーとセット3000円
	ウォーキング「農生活体験ウォーク」	1000円
28(金)	「ハワイアンを楽しむ」	2500円
	「ジャズとワインを楽しむ」	2000円
29(土)	特別講演・筑紫哲也「花も実もある」	無料
	「パーティー」	3000円
30(日)	「農作業体験」	無料
	「そば打ち体験」	2500円
	「玩具作り」	無料
	「昔遊び」	無料

福祉部会

「手をつなごうふれあい祭り」
を終えて

福6 - 福 芦原 耐子

この歳になるといろいろなことに巡り合います。ドラマの主役になつたり脇役になつたりして感動します。

その感動の度合いですぐに忘れてしまったり、いつまでも心に残ったりします。9月25日、10周年記念事業の一環で“わ”主催により福祉部会が中心となって、地域交流・体験事業としてカレッジホールにしあせの村の施設の人々を招き、ふれあい交流会を企画致しました。

午前中から準備をしながら心配していた夜来からの雨も昼ごろには上がり、空も明るくなりほつとしました。よかつた！午後1時30分ごろからそれぞれの施設のバスがカレッジの玄関に着くと、夏の暑い日、各施設を協力の依頼をして回ったことを思い出しました。



手をつないでふれあいダンス



ビーチボールの手渡し



快くご協力いただき参加して下さった人達の到着に胸がワクワクしました。

ホールの中は人でいっぱいです。歌あそび、手あそび、手品、ビーチボールの手渡し、六甲おろしの合唱、炭坑節の踊り、1時間あまりの短い時間でしたが楽しいプログラムに百余名がみんな嬉しそうでした。

終わって玄関でのサヨナラ！バイ！バイ！の見送りが名残惜しく思えました。初めての企画でしたが、参加して下さった方々本当にありがとうございます。盛り上げて下さった“わ”のボランティアの方々、そして裏方としてしっかりサポートして下さった在校生のボランティアグループの方々に深く感謝致します。

今後も福祉部は「再び学んで他のために」を合言葉にドラマを作り、感動の体験をいっぱいしていきたいと思います。次回福祉部会の予定は11月21日(金)10時よりと、1月12日(金)10時よりシルバーカレッジにて行います。是非ご参加下さい。

平成16年度学生募集説明会

オープンキャンパス(学校説明会)

下記日程でオープンキャンパス(学校説明会)をいたしますので、ぜひおいでくださるよう、ご友人、お知り合いに知らせてあげてください。

- 開催日程 お申込みは不要です 時間はいずれも午前10時～12時です。
 専15・11・7(金) 国際交流・協力、生活環境、美術・工芸、音楽文化、園芸、食文化
 専15・11・12(水) 福祉文化・国際交流・協力、生活環境、スポーツ
- 内容 学校の概要説明 ビデオ上映 授業、施設の見学 など

お問合せ先：神戸市シルバーカレッジ事務局

743 8100

環境部会

親子であつまれ 自然あそび塾パート

園5 - 環 田波 久紀夫

本年度の(財)長寿社会開発センターの助成金によるイベントのトップを切って「親子であつまれ自然遊び塾」パートが「昆虫採集と標本作り」をテーマとして、2003年8月23日(土)、しあわせの村野外活動センター「あおぞら」で“わ”本部と環境部会が共催して行なわれた。18家族46名の応募があったが暑さを心配して欠席する家族もあった。また子供には常に「命の尊さ」を教育しているので、標本作りの際に昆虫を殺すと言う行為は許されないとして、参加を取り止めた家族もあった。

今回はビオトープグループが主体となって準備を進めてきたが、冷夏で昆虫にも影響があるのではないかと心配して、前日にはビオトープ周辺の樹木に人口樹液を塗ったり、腐肉を紙コップに入れて地中に置いたりして、いろいろと昆虫を呼び寄せする仕掛けをした。

当日は久しぶりの暑い日で、熱中症を心配するほどのカンカン照りであった。いろいろな仕掛けの効果もあって、トンボ、チョウチヨウ、せみ、バッタなど数多くの種類の昆虫を採取することができた。

子供たちはもちろんのこと、親たちも夢中になって虫取り網を振り回し、追い掛け、どちらが主役か分からないくらい飛び回り、1時間ほどで虫カゴ一杯になるくらいに採取することができた。

一方、去年秋の自然あそび塾で、親子が蒔いたドングリもかなり成長しており、子供たちも驚いたり喜んでいたりしていた。

午前中の昆虫採集は無事に終り、親子そろっての昼食を楽しんだ後、簡単な「虫カゴ作り」をした。その

作り方は、1リットル入りのポリビンの下から約10cmのところをハサミで切り離して、下の部分を利用する。不要になったパンストを16cm程度の長さ切る。ポリビンの開放部に切ったパンストを被せる。パンストとポリビンをテープで留める。パンストの上部は昆虫の出し入れ口になり、輪ゴムか紐で縛る。ポリビンの上部の2ヶ所に穴をあけ、紐か針金を通して吊下げられるようにする。以上で完成である。簡単で有用な虫カゴは夏休みの工作の宿題にもなり、ワイワイ、ガヤガヤと親子共同作業が30分ほど続いた。

午後は三田市「人と自然の博物館」の大谷剛先生の指導による標本作りである。

まず、先生から一通りの標本作りの説明を受けた後、実技に移った。

発泡スチロール板の上に昆虫を置き、針の刺し方、刺す場所、待針を使って羽や脚の広げ方など個々に実技指導して頂き子供たちもお父さん、お母さん方も初めてのようで、



真剣に作業していた。

少し難しかったけれども、大谷先生の懇切丁寧な実技指導によって、1時間程度で一応標本ができ上がり、皆ホッとしたようであった。

ある子供から「僕も昆虫博士になりたいのですがどうすればよいですか?」という質問があった。先生の答えは「まず昆虫の名前をたくさん覚えてください」だった。その子は苦笑していた。もう少し違った答えを期待していたのだろうか。

一日を振り返っての感想では、親子共々、虫取りは楽しかったし、正しい標本の作り方を教えてもらって、とても嬉しかったので、帰ってから、もう一度作ってみたい、

標本の作り方は教えてもらう機会も少ないし、難しかったけれども、とても楽しく役に立った、などだった。

このイベントを通じて我々も童心に帰って三世代の交流で親子と一緒に遊び、一緒に学習・体験したことは、「自然あそび塾」のあり方の原点でもあり、計画が当を得ていたものであったことを心から嬉しく思った。

スタッフ反省会でも、このイベントは、改良するところは幾つかあるが、

来年もぜひ実施すべきであると言う意見が大多数であった。

最後にイベントにご協力頂いたスタッフの方々、環境部会のビオトープグループの皆さん、その他多くの方々に感謝申し上げます。



文化部会

KCS 創立10周年記念事業

親子であつまれ昔あそび塾(3)

国6 - 文 芝野 公男

9月28日午後、シルバーカレッジ創立10周年記念事業の最後を飾って、私たちシルバー世代が子どもたちに昔の日本の遊びを伝えるという集いが、カレッジのホールや中庭を使って催されました。グループ

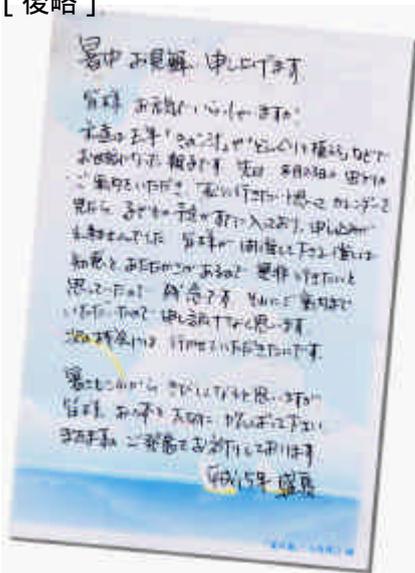
自然遊び塾におたより

昨年11月30日に催した自然あそび塾に参加した北区の木村さんから下記のような暑中見舞いのハガキが事務局宛に届きました。このような反響があると関係したスタッフの方々もまたまたやる気を奮い立たされますね。

[前略]

私達は去年「きのこ汁」や「ドングリを植える」などでお世話になった親子です。先日8月23日の虫とりのご案内をいただき、すぐに行きたいと思ってカレンダーを見たら、子どもの予定がすでに入っており、申し込みが出来ませんでした。皆様が開催して下さいの催しは知恵とあたたかさがあるので是非行きたい思っていたので残念です。それにご案内までいただいたので申し訳なく思います。次の機会には行かせていただきたいです。

[後略]



“わ”の主催で、文化部会が主体となつてのこの催しは、今回で3回目です。

当日はあいにく近隣の小学校で秋の運動会が開催されたところが多かったのですが、それでも200名余の親子の参加があり、子どもたちは目を輝かせて、人形劇や紙芝居を見たり、竹馬やぶんぶんごまや折染めなどの遊びに時の経つのも忘れて興じていました。

提供された13種類の遊びや見世物の中でどんな遊びが好評であったかは、当日100名以上の子どもたちから寄せられたアンケートの結果は下のグラフのようになっています。

当日は中島実行委員長を始め本部スタッフ、文化部会から「昔あそび研究会」、「折染め・折り紙グループ」、「マジックグループ」、「ほたる座」、「あかりの会」、「なでしこ」の各グループの皆さんの総勢110名余の協力によって、無事且つ盛会裏に行事を終えることができました。記して感謝の意を表します。

なおこの事業は(財)長寿社会開発センターよりの助成金によって行はれたものです。



竹馬は男女共に人気がある。

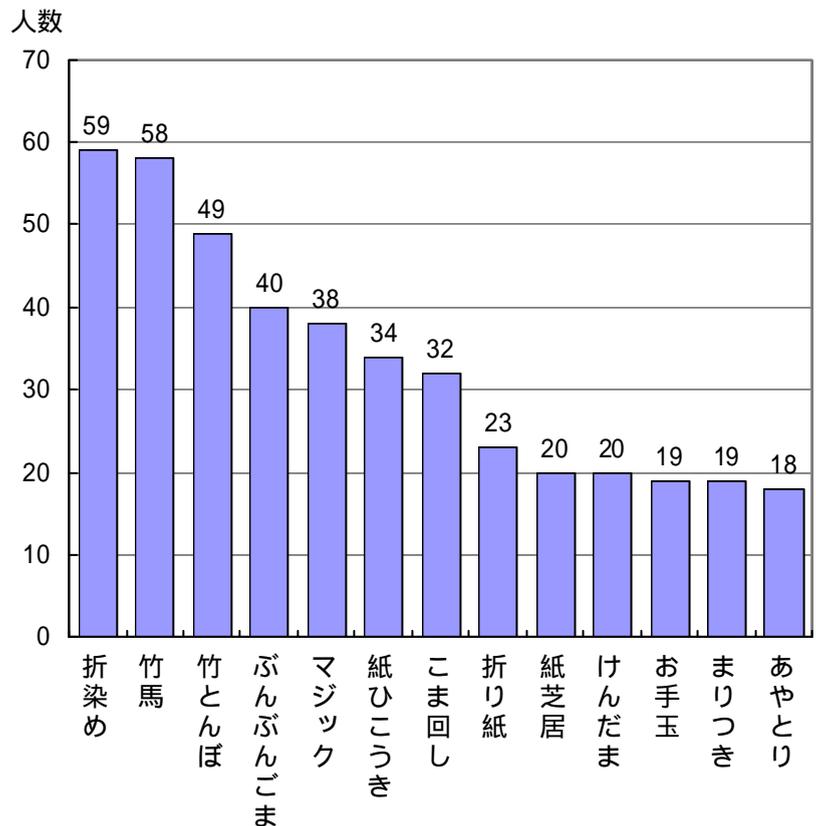


紙芝居。



綾取り。

どんな遊びが楽しかったですか



須磨区会

神戸大学医学部の

老人看護学授業で高齢者役

国2 - 須 浦上 俊樹
毎年心待ちしている楽しいボランティアがあります。それは神戸大学医学部保健学科看護学専攻学生（卒業後は看護師になる）3回生の老人看護学の授業にて行うものです。

看護師役の学生が高齢者役の私たちボランティアとの会話や観察から高齢者特有の健康状態や心理状況を把握しそれに応じた対応を実地に演習するものです。学生たちは最近の家族形態が核家族化し、老人との同居が少なく、従って老人世代との交流があまりないので、私たちがその代わりの役をします。

私たちのありのままの体験や現在の状態などを話したり質問に答えたりします。私たちとしても女子大学生とマンツーマンで色々話し合うことは滅多にないことであり、30分間の対話は実に楽しいものです。

私たちとしても若い世代を色々な面から観察でき良い機会でもありません。

1日に各々30分づつ2名の学生と対談することを2日間行います。須磨地区グループ“わ”より7、8名が参加し、ことして3年目になります。

大学への行き帰りには授業の全学生が校門まで出てきて送迎してくれて、私たちも彼女たちから若いエネルギーをもらったような楽しい気分です。

生物の掟は新陳代謝である。このときこうした設備が貴重な存在であるのは、以前から十分認識はあったはずだが、現実には車椅子の人、耳目の不自由な人と出会い接し、なお一段とこの必要性が強調される思いが募った。しかし世話を受けるのも、世話をするのも人間である。そして、人間の労力だけがその恩恵を受けられ、その役目を果たす勤めができる。その対応は常に忍従の連続だと、改めてこのスタッフに頭の下がる思いだった。

この夏祭り催場に“わ”長田区田中彬夫地区委員長は区役所福祉課の要請に応じて参加させてもらい、8月7、8、9日の3日間で7名が働いた。

最終日の参加は筆者と7期生。彼女はK子氏だった。共にボランティアは初体験で、彼女は飲み物を売り、筆者は予想外にも綿菓子作りだった。当初は不慣れな仕事に躊躇したが、作るたびごとに綿菓子特有のふっくらとした形ができるようになり、終わるころには「次回から綿菓子作りの技術者として登録したら」と同じ仲間の女大生に揶揄されても気を良くしたボランティア日だった。



神戸大医学部保健科にて学生達と(後列右から3人目が筆者)

長田区会

夏祭りボランティアに参加して

国6 - 長 田 實 光 男

平成15年8月9日長田区神戸ザルビア特別養護老人ホーム主催“夏祭り”催し場の販売手伝い人となった。当日は台風10号の通過直後で日照りが強く湿度の高い日だった。老人ホームと聞けばまず陰鬱の様相が一瞬過ぎる。しかし、見える館は瀟洒でシックなビルだった。玄関に

足を踏み入れた途端に受付嬢の歯切れ良い声音がこの外観に微妙に調和し和やかな安堵感を与えていた。

催場にはすでに本日の招待客の約300名が様々な形態で集まっていた。この地区の80歳以上の方々を送迎バスで出迎え、歌わせ踊らせ、そして、たこ焼き、おでん、綿菓子などで歓待し、滅多に外出のできない、対話相手もない孤独な人々に一度この機会を与え気儘に振舞わせていた。

今更述べるのはおこがましいが、

北区会

北区(7期生)会員交流会

国6 - 北 柳田栄一

「新入会員と北区地区世話人との交流会」を9月9日(火)午前10時~12時までカレッジ和室にて茶会形式で会員55名を対象に29名の出席を得て行いました。

地区交流会の趣旨は「ボランティア活動への活性化を図るため 会員との交流を深めると共に今後 地区への社会還元活動へのきっかけづくり」の目的でした。

- ・北区地区部会世話人の紹介
- ・“わ”の概要紹介
- ・平成14年及び15年度の北区地

区部会の活動状況説明

・ほか地区部会での代表的な活動状況紹介などの部会からの説明を交え、新会員の自己紹介でボランティア活動への現状報告や、思いを発言して頂きました。

出席者の7割の方がボランティア活動を実践されており、アンケート調

査結果でも今後「集会が必要」と言う意見が多く、この様なコミュニケーション手法を一例に食事会やニューススポーツ交流会など交流会の手法を検討・計画・実施に向けて、部会としての活動の輪を広げる必要を強く感じました。

北区7期会員交流会 カレッジ和室



ふれあい兵庫

福祉・健康フェアに参加

生5 - 兵 高田 隆三

こととして6回目になる「ふれあい兵庫福祉・健康フェア」が10月25日(土)JR兵庫駅南側のキヤナルタウン広場で開かれました。

このフェアはお年寄や障害のある方と区民の方々が楽しく、福祉や健康に関心を持つよい機会になるように楽しい催しが色々ありました。

パンジーの会では三島さん(福祉1期)ほか10名が参加、内4名はステージで行われる和太鼓演奏や吹奏楽など、プログラムの進行に合わせて舞台の準備・後片付けに終日忙しく活動をしました。

広場では福祉施設や各種団体によるバザー、軽食屋台、手話講習会などが開かれており、他の6名は場内整理とプログラムの配布を担当しました。

当日会場には車椅子での来場者が多数あり、それらの方々の誘導、通路の確保に注意をはらいました。



和太鼓の準備

午後4時過ぎ、出演者と来場者が一つになったの「よさこい鳴子踊り」で無事閉会となりました。長時間の勤務は少しきつかったが楽しく有意義な1日でもありました。

兵庫区会

リサイクル活動にひと役

ペットボトルいかにレース

生4 - 兵 室橋 雄三

兵庫区制70周年記念事業である第3回「ペットボトルいかにレース」が8月30日(土)晴天の兵庫運河のキャナルプロムナードで行われました。

レースは個人戦、団体戦でタイムの勝敗を競うだけではなく、環境省が提唱している容器包装リサイクル法に基づく環境意識の高揚も大きな目的の一つになっています。従ってレースに使用する「いかに」の材料は、自分で集めた使用済みのペットボトル、結束に使用する資材はビニールの紐のみで、またレースが終了すると参加者が各自でいかにを解体し、ペットボトルがリサイクルに回収されるまでを見届け、この時点ですべてレースが終了したことになります。

兵庫区パンジーの会では井内さん(美

工3期)ほか10名の方々が、いかにの解体に、駐車場の案内に、またパンフレット・アンケートの配布回収にと1日中汗を流しました。

なお環境省の発表によると全国の市町村が2,002年度に回収したペットボトルの総量は約18万8千トンで、回収率は45.6%、前年度より5.5%向上しており環境に対する市民の関心の高まりが感じられます。



中古パソコンを譲って下さい

- ・目的 :グループ学習で、パソコン再利用の為の課題を検討する実験に使用します。(例)HDデータ消去、OSソフトの著作権対応など。
- ・パソコンの仕様については、OSがW98以降を希望しています。
- ・連絡先 :ご提供頂ける場合は、大変恐縮ですが、下記へお願いいたします。生環3年・パソコンリユースチーム :谷垣健治 (Email :k-tanigaki@md.0038.net) (電話 <自宅> 078-582-1045)

垂水区会

水道をもう一度見直そう

SC垂水会の研修見学会

福6-垂 江藤 隆義

健康の源はおいしい空気とおいしい水とされている。約8年前の阪神・淡路大震災の時は、電気・ガスと共に水道を使えなかったことでお互いが大いに困った。

2003年度のSC垂水会研修見学会は、過去のテーマと重ならないこと、水に困った記憶から水道についてもう一度見直そうと「おいしい水、安全な水」の出前トークと水道施設見学を検討し、垂水区内に上水道に関連する適当な会場も無かったので、上水についての質問・提言のメール先である神戸市水道局

(itteki_chan@mb.city.kobe.jp)

と相談し、奥平野浄水場管理センター・水質試験所を借用・開催することにした。

周知のように、神戸市の上水に関連する施設は、JR神戸駅からバス三宮行きの途中、兵庫区楠谷町37-1に「水の科学博物館」、「奥平野浄水場」、「水質試験所」が集中している。この3施設の見学と出前トークを行うには時間的な制限も有り「水の科学博物館」は常時見学が可能である（「すこやか手帳」を提示すると入場料無料になる）ので割愛した。

奥平野浄水場では、中島副所長の神戸の水道施設の概要説明を聞いた後、テレメーター・テレコントロールシステムを見学した。

神戸の水道水は水源に恵まれていないので、阪神水道企業団・兵庫県水道用水供給事業から3/4は購入しており、また坂の多い町であるためにどこの家庭でも使い易い水圧で水が出るように、配水池を30メートルの高さごとに設けている等、平地にある大阪市等には無い苦労があるようだ。水をムダなく適切に配水池に送るよう有線や無線のネットワークを使って、この奥平野管理センターのコンピューターを使って24時間集中管理しているのがテレメーター・テレコントロールシステムである。3人のオペレーターが大型スクリーンに映る状況に応じて操作している様子をガラス越しに見学した。

水質試験所では、伊藤主査から、オゾン発生器を使つての有機物質の分解、活性炭によるかび臭さやトリハロメタンなどの元となる物質の吸着による高度浄水処理の追加等による水質改善の説明や、基準46項目、快適水質13項目、監視35項目等水道水質に関する94項目の測定の説明等があった。近年分析精度もppm、ppb、pptなどと向上し、微量分析が必要とされてきつつあり、空気中からの混入除去等でクリーンルーム内での分析が必要になっているようで、微生物除去も大きな問題のようであった。ヒメダカによる安全な水監視の説明があったが、サリン事故でのカナリア使用が思い出された。

最後に有本主幹による「おいしい水、安全な水」の出



貯水池からの原水や水道管からのサンプル水など54カ所からの標本が集められ、分析されている。



サンプル水を寒天培養皿に入れて、細菌類がないことを確認するための培養室。



「おいしい水、安全な水」のテーマの出前トーク。どうしたら水をおいしく飲めるかなど、すぐ試してみたい有用な話をたくさん聞いた。Q&Aも活発だった。

前トークがあった。おいしい水の基本は水温にあり、冷やして飲むのがおいしい水を飲むコツであるとか、その他硬度・遊離炭酸・蒸発残留物・残留塩素等も関係するそう。暑い中で参加者26名の見学・出前トークであったが、得るところが多かったのではあるまいか。

いきいきヘルシー ニュースポーツのつどい

ニュースポーツの体験を通して
健康づくり・ふれあいづくりを！！

たくさんの方の参加をお待ちしています！

日 時：2003年11月17日(月) (カレッジのジョイラックデー)
午前10時～12時
場 所：シルバーカレッジ中庭
実施種目：スカイクロス体験をしまて
参加費：100円



スカイクロスとは輪投げとゴルフをミックスしたニュースポーツです。詳しくは日本スカイクロス協会のホームページ <http://www.skycross.jp/> をご覧ください。

いきがい部会

親子であつまれ ケナフ紙すき塾

日 時：2003年11月29日(土)
午前10時～午後3時
場 所：北区しあわせの村野外活動センター“あおぞら”クラフト室
申込み：住所、氏名(親子とも)、子どもの学年、電話番号を書いて
FAX 078-743-8103でお申込ください。
締切り：先着25組
11月1日配布の広報こうべもご覧ください。



環境部会

12月のパソコン講座

「デジタルカメラ・画像について」

12月8日、9日、10日、11日

時 間 午後3時～4時30分

受講料 3000円

グループ“わ”会員8名の枠があります。

希望者は事務局078-743-8101へお電話を
なお2004年2月(Eメール)と3月(入門、ワード
中級)も予定しております。

連
戴
5

近郊ウォーキング



滝山城跡と布引の歌碑

生4-北 廣川 幾雄

新神戸駅のすぐ裏に昔滝山城という城があったことを知っていても、実際に行ったことのある人は少ないのではないだろうか。この滝山城は、いつ誰が造ったか明らかではないが、赤松円心が1333年に挙兵した時、布引の城に籠もったという記録があることから、滝山城はその時存在していたと言える。室町時代末期あの有名な松永弾正久秀がこの城の城主で、1556年の名月の夜主君の三好長慶を招いて連歌、猿楽の会を催したという。

松永久秀は足利将軍義輝を殺し、それが原因で三好と対立し織田信長の配下に入るが、のち信長に反逆しついに1577年大和信貴山城で敗死、波瀾の一生を送ったことから極悪人のように言われているが、能や茶道を愛した風雅の人でもあった。

さて新神戸駅の裏手に入っすぐ藤原定家卿の歌碑の脇の細道を左に上って行く。小さい道標なので見逃さないように。思ったよりけわしい道なので、登山靴とステッキは必要だし水筒も持ったほうがよい。道はよく

整備されていて危険個所はないが、なにしろけわしい。所々に小さな平地があるのは曲輪のあとで、その数30以上もあり守るに固い城であったことがわかる。馬も輿も通れない狭い険しい道を松永久秀や三好長慶は歩いたのだろうか。連歌師や能役者もこの道を上ったのだろうかと考える。どうやら城主の館はいまの徳光院のあたりにあったらしい。休み休み歩いて30分で本丸跡に到着。史蹟滝山城跡の石碑が立っているだけで城らしいおもかげはない。松永久秀のあと、この城も幾度かの攻防があり、やがて織田信長の手中に入り、花隈城とともに荒木村重の支配する所となる。その後村重が信長に謀叛したことから、信長に攻められ、1579年とうとう落城してしまう。その時滝山城花隈城の石は一つ残らず運び去られ、兵庫城築城の材料に用いられたという。

松永久秀の孫にあたる江戸時代の俳人、松永貞徳がのちにこの地を訪れ「夏草にあんまとらせて苔の石」という一句を詠んでいる。

帰りは夢風船の鉄塔の下を左に曲がり、「猿のかけ橋」を通って川沿いに下ることにしよう。

雄滝のすぐ下に在原行平、業平の歌碑がある。布引滝は平安時代から、華厳滝、那智滝とともに三大神滝と呼ばれ、多くの貴族や歌人がこの地を訪れ和歌を詠んでいる。明治のはじめ花園社という民間団体が布引滝に関する名歌を撰び石碑36基を建てた。その後一部は散逸したが近年中央区役所により復興されつつある。以前は万葉仮名で読めなかったが、現在は現代かなで示したタイトルの解説板が横に並べてあるので楽に読めるようになった。

今から1000年以上も前に、都の要職にある貴族たちがはるばる滝を見るために、ここまでやって来たのかと思うと感無量である。

カラー版情報ぎやらりー

情報ぎやらりーはホームページ(HP)にも全文を掲載しております。HP版では写真やカットもすべてカラーです。閲覧にはアクロバット・リーダーが必要ですが、ネットから無料で入手できます。情報ぎやらりーのアドレスは<http://www.wa-net.jp/html/kaihou.html>です。本紙がお手元に届く頃にHPも更新されます。(広報部)

編集後記

終盤近くのもたつきから一抹の不安はあったのですが、日本シリーズではかつての猛打爆発は見られず、星野さんの花道を飾ることができませんでした。でもいい夢を見させてもらいましたが、まさか次の夢は18年後なんてことはないでしょうね。TVに没頭してたから発行が遅れたわけではありません。(サン)

或る資料によると不動産、電化製品の購入など、日本の家庭内における重要な事項の決定権は夫63%、妻13%、夫婦で決めるが24%だそうです。米国では夫21%、妻20%、夫婦59%でこれだけを見る限りまだまだ日本では男性優位が窺えます。皆さんのご家庭での実権はどなたですか。ことし神戸市で男女共同参画社会づくり条例が施行。(TS)